

<材料化学システム工学討論会 2020> 報告書

幹事： 山内 紀子(茨城大学) 副幹事： 石飛 宏和(群馬大学)

2020年10月5日に、材料化学システム工学討論会2020がオンラインで開催され、合計2件の博士後期課程3年生による依頼講演発表が行われた。

本討論会は、毎年、最新の研究を行っている新進気鋭の研究者に話題を提供して頂き、材料・界面部会の若手研究者を中心として徹底的に討論することを趣旨として、8月末～9月初めに開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、初めてオンラインでの実施となった。東京でのオンサイト開催を見合わせた5月初めの時点で、オンラインでどこまで実施できるか不確定要素が多かったため、一般講演に関しては来年度への延期を決めた。日程に関しては、東京大の辻先生にご相談したところ、秋季大会後にGOING VIRTUALを使用して実施できることがわかり、例年よりも遅い10月5日の実施とした(GOING VIRTUALの使用に関しても、辻先生に全面的にご協力いただきました)。

聴講者数は例年より多く(48名)、質疑応答も活発に行われた。オブザーバーとしてご参加いただいた部会長の庄野先生には、はじめのご挨拶を、次期部会長の山村先生には閉会のご挨拶をいただいた。また、今回は学生講演者に謝礼として図書カード(5000円)を贈呈した。

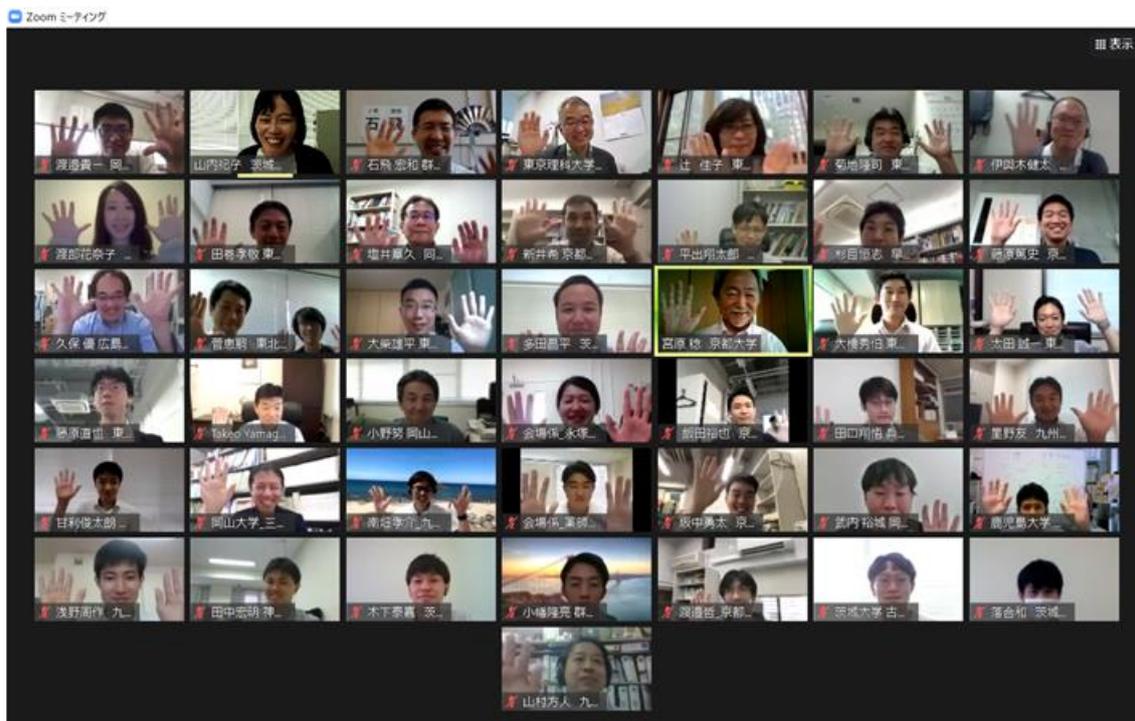
本討論会の実行委員会は、討論会に引き続いて行われ、来年の討論会幹事は群馬大学の石飛宏和先生、副幹事は京都大学の引間悠太先生をお願いすることになった。

詳細は下記の通りである。

日時	10月5日 13:30～16:00 依頼講演2件
会場	オンライン(化学工学会のオンライン学会システムGOING VIRTUALを使用)
聴講者数	48名(産0名, 学48名)
依頼講演	『枯渇引力誘起型コロイド自己集積現象における構造形成機構の解明』 新井 希 氏 (京都大学) 『固体リン酸塩電解質を利用した中温作動型電解セルの開発』 藤原 直也 氏 (東京大学)

資料⑤a-2

参加者の集合写真と、オンライン討論会会場 (Zoom 画面のキャプチャー)



以上

＜材料化学システム工学討論会 2020＞ 会計報告書

収入 部会からの補助 100,000 円

支出

学生講演謝礼（図書カード）（2名）	¥5,000	2	¥10,000
図書カード郵送費（2名） （レターパックライト）	¥370	2	¥740
学生アルバイト謝金（2名）	¥3,000	2	¥6,000
アルバイト料支払明細書郵送費 （レターパックライト）	¥370	1	¥370
合計			¥17,110

学生アルバイト（2名）には、会場係として参加してもらい、座長の進行補助などをしてもらった。

収入 100,000 円

支出 17,110 円

残金 82,890 円

備考： 部会からの補助ではなく、討論会で集めている懇親会費用について

懇親会費の次回（2021年度）への繰り越し 12,127 円

（2020年度は懇親会がなかったため、2019年度幹事の渡邊先生から、2021年度幹事の石飛先生へ引継ぎ）